

小督塚と琴きき橋



松尾大社境内の見所

酒の神様として知られる松尾大社の境内のノノ井川は四月中旬頃に咲く山吹の花の名所です。また、社殿の庭園(松風苑)は昭和の作庭家重森三玲の最晩年の代表作になります。「霊亀の滝」近くにある「亀の井」の名水は、この水で酒を造れば腐らないといわれています。



高倉天皇の寵愛を受けたため小督局は中宮徳子の父・平清盛により宮中を追放され、嵐山に隠棲しました。天皇の使者が渡月橋の畔で小督の奏でる琴の音を聞き、居場所を探し当てたという「琴きき橋」の伝説が伝わり、渡月橋北詰には小督塚と琴きき橋があります。

渡月橋

平安時代初期には今より上流にありましたが、後年、角倉了以が架けた橋の位置に、現在の渡月橋が架かっているといわれます。また、「渡月」の名の由来は橋の上を移動して行く月を亀山上皇が眺められて、「くまなき月の渡るに似る」と想いを馳せられたことによります。法輪寺の十三まいりの際は、振り返らず橋を渡りきれば願ったことが授かるとされます。

法輪寺

寺伝によれば713年に僧行基(ぎょうき)が開創し、平安時代に空海の弟子・僧道昌(どうしょう)が虚空蔵菩薩を安置。毎年4月頃、厄年とされる数年13歳の男女が智慧・福徳を授かる「十三まいり」が広く知られています。境内には針供養塔や京都市内が一望できる展望台などもあります。

松尾大社

この地で信仰されていた松尾山の磐座(いわくら)の神霊を、秦氏が勧請して社殿を創建。賀茂神社とともに王城鎮護として歴代天皇に崇敬を受け、酒造の神としての信仰もあります。平安時代作とされる御神像三体や多数の古文書が所蔵されており、上古・曲水・蓬莱(ほうらい)の松風苑(しょうふうえん)の三庭を拝観できます。祭事は「例祭」「松尾祭(神輿渡御祭)」「御田祭(おんだい)」(市登録無形民俗文化財)などが有名です。



浄住寺

僧円仁の創建で、藤原北家勧修寺派の葉室家により再興された黄檗宗の寺。閑静な境内に本堂などの建造物(市指定文化財)が並び、新緑や秋の紅葉がみごとです。(市文化財環境保全地区)



山口家住宅 苔香居

代々葉室家に仕え、葉室御霊神社司の家筋といわれる山口家の住宅。庭園の苔や桜、紅葉などが見事で、年に数回催される、お茶会などの時のみ公開されています。(国登録有形文化財・市指定景観重要建造物)



西光院

平安時代末期の武士・歌人で僧の西行(さいぎょう)法師が出家直後に庵とした西光寺と西光庵が1909年に合併し、西光院となりました。境内には西行法師手植えと伝わる西行桜があります。

蔵泉寺

室町時代創建とされる臨済宗相国寺派の尼寺。夢窓疎石が西芳寺から天龍寺に向かうために通った際に腰を下ろしたという腰掛石が二石、門前にあります。

華厳寺(鈴虫寺)

1723年、僧鳳潭(ほうたん)が開創。年中、鈴虫の鳴き声が聞ける「鈴虫寺」として有名です。門前には一つだけ願いを叶えられる、わらじを履いた幸福地蔵菩薩があり、若者に人気の高いお寺です。

地藏院(竹の寺)

歌人藤原家良(ふじわらのいえよし)の山荘跡に細川頼之が建立。頼之の妻の念持仏といわれる千手観音坐像は重要文化財に指定されています。また市登録名勝の方丈庭園「十六羅漢の庭」があり、周りを竹林で囲まれていることから「竹の寺」とも呼ばれます。一休禪師が幼少の頃、修養された寺でもあります。(市文化財環境保全地区)



夢窓疎石

南北朝時代の禅僧。「夢窓」他七つの国師号を持ち、七朝国師と称されます。天龍寺や臨川(りんせん)寺の開基で、西芳寺を再建するとともに庭園も作庭しました。臨川寺の墓所で眠ります。この地には他にも蔵泉寺の腰掛石など疎石ゆかりの場所もあります。



山田道

嵐山～松尾



山田道は丹波と嵯峨を結ぶ主要路でした。また、渡月橋から南に広がる松尾山麓の桂川一帯は、平安京遷都に寄与した秦氏の基盤でした。現在は、この道すじに法輪寺、松尾大社、華厳寺(鈴虫寺)、西芳寺等の京都観光で人気の高い寺社が並び、風光明媚で情緒あふれる観光の小路となっています。ここでは嵐山渡月橋から松尾周辺までの山田道を中心に、この地の歴史と見所を紹介してゆきます。

嵐山・松尾と月

嵐山・松尾は月見の名所です。渡月橋周辺では毎年中秋の名月に合わせて月見イベントが催され、松尾大社でも「観月祭」が行われます。また、月読神社は月の神「月読尊」を祭神とし、月読尊と神功皇后ゆかりの月延石もあります。



桂離宮

江戸時代初期、八条宮家の智仁(としひと)親王と智忠(しただ)親王によって整備された別荘建築。自生の竹を用いた桂垣に囲われ、中央の池の周りに、数寄屋造りの書院や御殿のほか、月波楼(げっぱろう)、松琴亭(しょうきんてい)、笑慈軒(しょういけん)などの茶室を配した池泉回遊式庭園です。遠近法や真・行・草の表現で構成される通路と敷石の変化も見事で、日本の近世建築文化を代表する簡素で機能的な美しさを見せています。拝観する場合は、宮内庁京都事務所窓口や郵送などで申し込みをする必要があります。





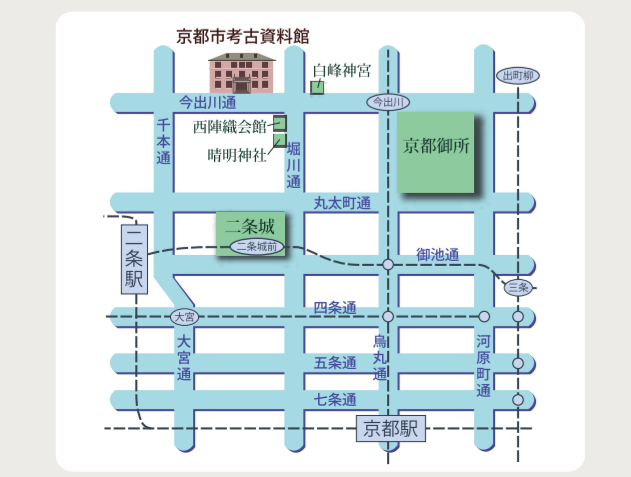
～文化財と遺跡を歩く～
京都歴史散策マップ



発行 京都市・(財)京都市埋蔵文化財研究所



京都市考古資料館
 大正3年に本野精吾の設計で建てられた旧西陣織物館を内部改修し、京都市内の発掘調査・研究の業績を発表・展示するため昭和54年11月に設立されました。特別展と常設展で構成され、約1000点の遺物が展示されています。遺物展示のほかにも、映像やパソコンで旧石器時代から近世にかけての京都の歴史を学ぶことができます。建物は、昭和59年に京都市有形文化財に登録されています。
 〒602-8435
 京都市上京区今出川通大宮東元入伊佐町 265-1
 TEL. 075-432-3245 FAX. 075-431-3307
 http://www.kyoto-arc.or.jp/museum/
 入館無料・月曜休館(月曜が祝日の場合は翌日)
 開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)
 JR京都駅より地下鉄烏丸線 今出川駅下車徒歩15分
 市バス201・203・59系統 今出川大宮下車すぐ



山田道周辺の発掘調査

山田道は京都市西京区の北東にあたり、西山山地の裾野を南北に嵐山渡月橋付近から千代原口辺りまで延びています。桂川右岸にあたる道沿いの松尾大社の東南には、弥生時代から古墳時代後期の集落跡である松室遺跡があります。発掘調査により古墳時代後期の大規模な水路跡が見つかり、渡来系の秦氏一族が渡月橋付近に建設した「葛野大堰(かどのおおい)」からの分水路の一つと考えられ注目されています。南には穀塚(こくづか)古墳や山田桜谷古墳などの大型前方後円墳が点在しています。西側の山地には古墳時代後期の松尾山古墳群や西芳寺古墳群、また西芳寺川沿いには西芳寺川古墳群などがあります。これまでの分布調査により円墳が総数100基以上確認されています。飛鳥・奈良時代以降は、道沿いに松尾大社や月読神社が建てられ、桂川右岸域の開発がさらに進められました。平安時代から中世にかけては西芳寺や浄住寺の建立、葉室(はむろ)家など貴族の別荘などが営まれ、山田道沿いには村落も形成されました。道沿いの景観や地名には、今もその歴史や文化の一端を残しています。



古墳から出土した円筒埴輪(後列)と蓋型埴輪(前列)



古墳から出土した動物をかたどった埴輪



石室から出土した画文帯神獣鏡(がもんたいしんじゅうきょう)

1 史跡・名勝 嵐山(鎌倉時代～室町時代)

渡月橋から東南約300m付近の桂川右岸で、2008年に発掘調査が行われ、鎌倉時代から室町時代の水田・畦畔(けいはん)・溝などの耕作に関連する遺構が発見されました。この遺構は室町時代末期に桂川の大規模な洪水によって大被害に遭い、江戸時代には耕作地として利用されたことも明らかになっています。



発掘調査の様子



耕作溝跡(鎌倉時代から室町時代)



溝跡から出土した土器類(鎌倉時代から室町時代)



石室から出土した金銅製の帯金具
(写真掲載 『平安京以前～古墳が造られた時代～』京都市文化財ボックス第26集 京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課発行)

5 山田桜谷古墳群(古墳時代中期)

1986年に発見された松尾山の南、唐櫃越沿いの標高約120mの丘陵部に2基の前方後円墳があります。1基は全長約50mで、他の1基も同規模と考えられています。5世紀中頃から後半の須恵器や埴輪片が採集されています。



山田桜谷古墳群から京都市街を望む



採集された埴輪と須恵器(上段の右端)
(写真掲載 『平安京以前～古墳が造られた時代～』京都市文化財ボックス第26集 京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課発行)

2 松室遺跡(弥生時代～飛鳥時代)

松尾大社の東南、桂川が蛇行する付近に分布する集落跡です。1983年に松尾中学校新設に伴う発掘調査で、弥生時代から飛鳥時代の、竪穴住居や掘立柱建物、溝跡などが多数発見されました。とくに、古墳時代後期の幅約15m、深さ約1.5mの大溝は、「葛野大堰」からの分水路の一つにあたること注目されています。また、出土した遺物には弥生時代の土器とともに石鏡などの石器や古墳時代の土器があります。



上空から見た発掘調査の様子



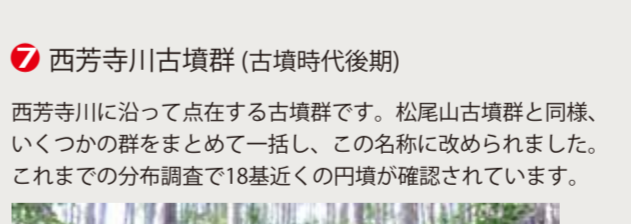
葛野大堰から分流された古墳時代後期の用水路跡

6 松尾山古墳群(古墳時代後期)

松尾大社裏山の尾根筋から谷筋にかけて点在する古墳群です。従来はいくつかの群に分かれていたものを、相次ぐ古墳の発見により一括されたものです。これまでの分布調査で総数40基近くの円墳が確認されています。



松尾山の山腹に築かれた古墳



開口する横穴式石室の内部

7 西芳寺川古墳群(古墳時代後期)

西芳寺川に沿って点在する古墳群です。松尾山古墳群と同様、いくつかの群をまとめて一括し、この名称に改められました。これまでの分布調査で18基近くの円墳が確認されています。



西芳寺川北の上方斜面に築かれた古墳



円形の竪穴住居跡(弥生時代)



方形の竪穴住居跡(古墳時代)



方形の竪穴住居跡から出土した土器類(古墳時代)

3 上ノ山古墳(古墳時代後期)

穀塚古墳の北側に隣接して築かれた、径約10m、高さ約0.5mの円墳です。発掘調査は行われていませんが、墳丘の大半が現存しています。今後の調査が期待されます。



墳丘の大半が残存している上ノ山古墳

4 穀塚古墳(古墳時代中期)

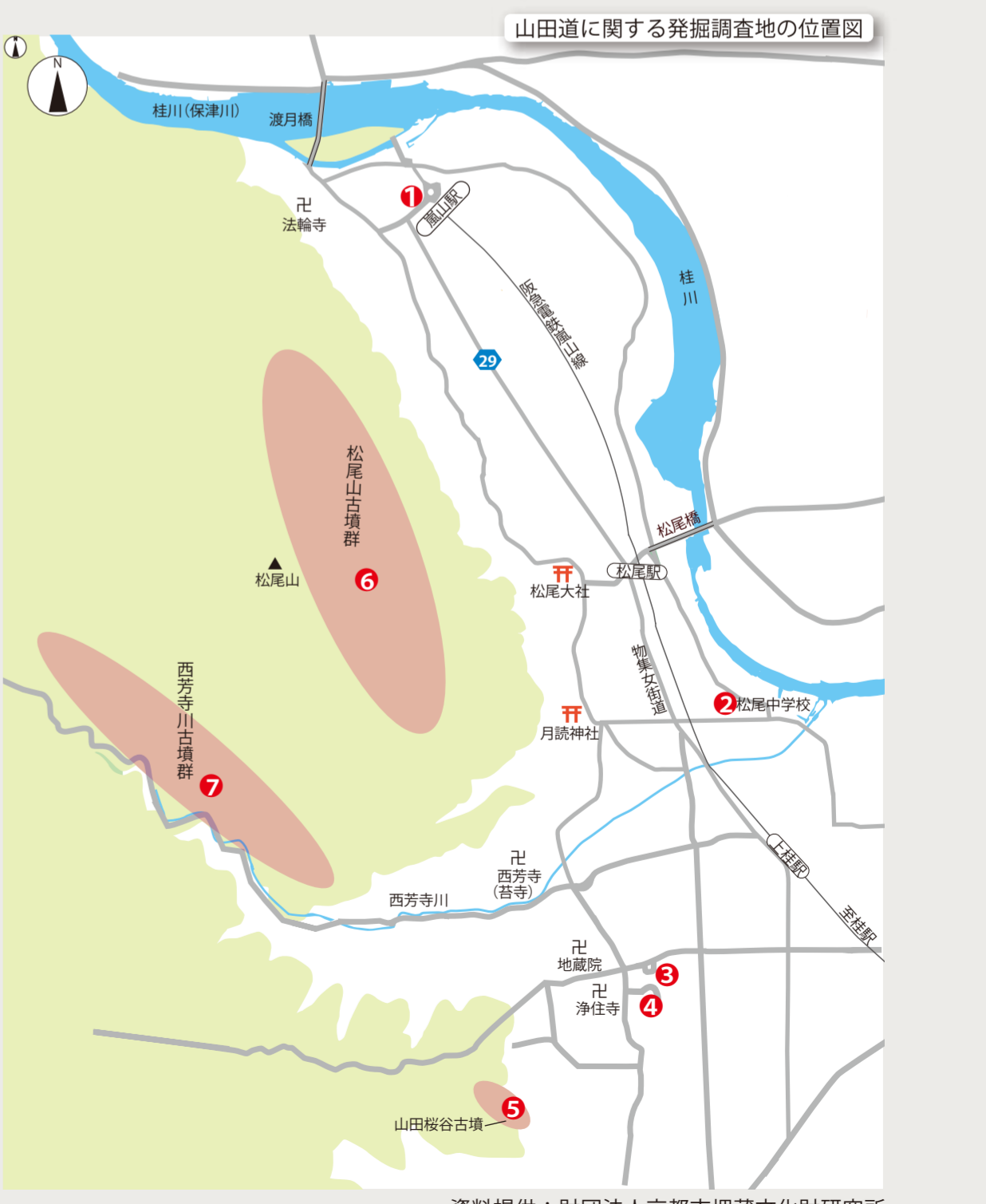
全長約40mの前方後円墳で、墳丘は基石や埴輪で装飾され、後円部には竪穴式石室がありました。古墳は既に消滅していますが、後円部外周のラインが今も道路のカーブに残っており、かつての古墳の存在を想起させます。また、立会調査で周濠を一部確認しています。大正時代から戦後の開発工事の際に石室から鏡や帯金具、鉄鏡が、墳丘からは埴輪が発見されています。



墳丘(1953年当時、左側の後円部上には盗掘坑がみられ、墳丘周囲も削平されている。)



後円部付近の現状(後円部の外周ラインが道路のカーブとして残る。)



資料提供：財団法人京都市埋蔵文化財研究所